

茨城 全研ニュース #1

認知症の人と家族への援助をすすめる
第35回全国研究集会 in 茨城

公益社団法人 認知症の人と家族の会 茨城県支部
事務局／〒300-1292 茨城県牛久市中央3丁目15-1
(牛久市保健センター隣)
TEL/FAX 029-828-8089
E-mail alz2010ibaraki@yahoo.co.jp

今年の全国研究集会は茨城県つくば市で開催されます。



今、春を迎えて、茨城県の県木でもある梅の花が満開です。写真は水戸・弘道館の梅です。梅といえば、日本三庭園の1つ水戸の偕楽園が有名です。

水戸は県庁所在地ですが、今回の全研は、より交通のアクセスが便利なつくば市の国際会議場で行われます。

研究集会の構成や内容も最終段階検討中であり、併せて、段取りや支援体制など、円滑な運営に向けての作業にスタッフ一同力を注いでいるところです。今回は「つなぐ～認知症の人とその家族が地域の人と共に生きる社会～」をテーマに掲げています。そこで、茨城県支部の宮原節子代表に話を聞きました。



「5月1日より元号も変わり、新しい時代になりますが、認知症を取り巻く現況に明るい情報はなかなか見当たりません。先日催された男性介護者の集いでも、『先が見えない、この先安心して介護生活を送ることができるのだろうか』ということです。これまでは『認知症の人に寄り添う』という思いで来ました。今後、高齢者の5人に1人・4人に1人が認知症になるとすれば、今や『国民病』と言っても過言ではない社会背景です。他人事ではなく、国民全体が『認知症の人と共に生きる』時代になると考えられます。こうした事を少しでも多くの人に認識してもらおうのが、今回・全研の一つの使命ではないかと思っています。

シンポジウムでは横断的に、なるべく様々な立場の人をお招きできればと考えます。共生社会を目指して行くには、今まで認知症に関心の薄かった人達にも、どう正しく認識してもらおうかが大切になってきます。まだ認知症とは直接関わっていなくても、興味があったり、不安を感じている人を対象とした『介護カフェ』などの取り組みも、施設などを起点に始まりつつあります。認知症サポーターの数も増えてきて大変ありがたいことですが、サポーターの方々の意識を更に高めていく『学ぶから動く』へ、という点も課題です。

これからは支援の手が身近に感じられる社会になればと思います。

茨城県支部・17名の世話人さん各人が其々にライフワークを持ちながら家族の会・全研の準備に力を尽くして下さっている事に感謝し、支部としても飛躍の年に、そして『第35回全国研究集会 in 茨城』の大成功にむけて頑張ります。」

“つなぐ” ～認知症の人とその家族が地域の人と共に生きる社会～

2019年10月27日(日)9:30～15:30

つくば国際会議場(〒305-0032 茨城県つくば市竹園2-20-3)

〈基調講演〉 朝田 隆(筑波大学名誉教授・メモリークリニック御茶ノ水院長)

〈事例発表〉 全国公募による口述発表(認知症本人・県内外の介護家族・専門職他)

〈落語・小噺〉 橘屋二三蔵 「MC Iの独り言」

〈ランチタイムイベント〉 「脳を活性化して健康寿命を延ばそう」 黒木勝紀氏

〈シンポジウム〉 シンポジスト:認知症本人・介護家族(2名)・医療関係者・専門職・厚生労働省・茨城県・「家族の会」理事

コーディネーター:高見国生(「家族の会」顧問、前代表理事)

〈展示コーナー〉

参加費(資料代他) 一般2,000円 学生1,000円

上記のテーマを踏まえ、実践や体験を募集しています。

- ◆ 発表時間:口述発表15分程度
- ◆ 応募方法:発表テーマとその内容(約1,000字程度)、住所、氏名、年齢、職業を明記して、メールまたは郵便でお寄せください。(締切:2019年6月20日)
- ◆ 応募先:E-mail:office@alzheimer.or.jp,
郵送:〒602-8143 京都市上京区猪熊通丸太町下る仲之町519番地
京都社会福祉会館内
「家族の会」本部事務局 全国研究集会事例発表係